



「バイオの世紀」を 日本がリードするために

中外製薬特別顧問

小坂達朗

こさか たつろう

今

年に入り、パンデミックからしばらく社会活動が正常化に向かうかと思えたが、ロシアによるウクライナ侵攻を受けて、地政学的状況の緊迫度は増し、経済の先行きは再び不透明感を増している。

こうした環境の中、我が国が発展を続けていくためには、最大の資源である科学技術力と人材の強みを発揮し、イノベーションで世界を牽引していく他にない。

今後のイノベーションにおいて、「デジタル」が1つの鍵であることは間違いないが、これに加えて「バイオ」が社会・経済のあり方を大きく変えていくことも確実である。

この度の新型コロナウイルス・治療薬の開発においては、まさに最先端のバイオ技術が投入されたことで、驚異的なスピードでの実用化が実現した。これらのワクチン・治療薬がなければ、パンデミックが人々の生命や経済活動に与える影響は遥かに大きくなっていただろう。

また、バイオ技術は、食料増産や脱炭素促進など持続可能な社会実現の重要な要素であり、新たな素材開発・廃棄物処理など幅広い産業での活用も期待される。

持続的経済成長と社会課題解決を両立するバイオエコノミー社会実現に向けた機運はかつてないほど高まっている。将来、21世紀は「デジタルの世紀」であるとともに、「バイオの世紀」として位置付けられることになるだろう。

元来日本は、ライフサイエンス分野で世界トップレベルの学術・技術基盤を持っており、「バイオ」は大きな可能性を秘めている。各産業でバイオ技術を活かしていくことが、多様な分野で日本企業が国際的な競争力を発揮していくうえで重要だ。

「バイオの世紀」において、日本が世界をリードしていくためには、各企業がそれぞれの強みを「デジタル」と「バイオ」によって進化させるとともに、業種の枠を超えた産学官の緊密な連携により、国内外から人材と投資を惹き付けるイノベーションエコシステムを作り上げていくことが欠かせない。今後、経済安全保障の観点からも、バイオ分野の強化を支える基盤づくりが大切になる。

会員企業の皆さまと意見を交わしながら課題解決に取り組み、我が国の発展に向けて尽力してまいりたい。